翁問答

ロ 13
1619
1.

續々群書類從

教育部之中山閲了

五(下)

順序七

翁問答 上

181

四仁13
1.619
1

門口仁3
番 1619
巻 1-2

フリガナハ凡テ取ル
句トウ点スベテトル

宮内省図書寮

翁問答序

志学乃ちしるを心とするを分とおこす学ぶこと
ちしるを以て学門教門とすべしと
しるを以て学門教門とすべしと
しるを以て学門教門とすべしと
し

ひ物哲ものもとゝ露霜よりとれるあり
天君ときくとえとあり
のうるもしまく彷ゞ儿拔とうく風月けう
我胴力伯樂ものハ眞駑ハ驚れうちハ忘れゞこと感
俊いとゝもゝゞうく人あい和廣まして遥遠なれゞ俗
儒乃儆案ときほくしく案ふるふらゞひ心ものうしに
ちうくうくうやまれあ瞞の日はつねよ傳ようたれ
門ひよ祥元ちて俊秀なる人あるて平日敬同論義
やしちにかうくうて こ是疑我
んのとよもれ除ハ記憶ものうとこゝ心乃粗
遊どちとあまたちりぞひく傳說して書つけ遺

えうりそるへれ斯しとゝ
ものまくよりんよまりあ
もう用情りゝ俗ちあれどりまく我ときの
愚者ものゝ第一立ものうとけこもなるゞさかやあ
ちるめうゝ義問答と記号して中旨にか
とゝ記けるくしくくとゝ君子の刪とゝ
愚者乃きつけうまして翁の年ものゝ
ゞとうもんなうゝ人あゝば辭
て志とそこゝゞバ君人の大幸ものゝ

別段より紙

翁同巻を我藤樹先生の撰ぶ処なる先師
掌て仕を稽引し勢州江陽に帰る諸方の
同志先覚に離て刑儀とうしなひ又文学ふ
ゆるれバ黙書の編発とも得ること
なげきて惑を解へ徳に入ること能ハ彼君云
ハ奥へ帰ハ師先に拾て終に
此同巻上下と著し時に寛永十八年
辛巳乃冬熊沢師の学愈新なるを

此問答念を心に留めんば、後世の志の重なれば
廣く門人に接けんこと愛に愛末の年
悔人のまみ見て深く悔ふらるもとと
幸ひ早く知て是を改めぬ
或人曰翁問答真文正明にして海内遠邇
人の愚なること紀を讀て益とう事多
かるべし何ゆへ秘して弟子に接け
たまはずや 翁の曰答は問答と云せ一時今に
ぞ学いまうまで精到あれば且聖道の功
真義論抑揚甚しく後に圭角の累をぬ
れば讀人吾本意とせずして或は
勝心を助ん怨を世に益なしして損あん
吾これ我改正せんと欲を放り今ひ深く傳
ふる事を欲せず
丙戌乃年下巻一三篇と正しく書の

年又これを改めんとて病とりつくの故にやが
て浴よ不果同年上巻と改め書せんと
欲せしかども果さざる
又問答
先師常問答の中に儒佛と論ずる処乃ち今
これを讀よ理精密なる事を覚ふ
又曰問答上巻吾孝經より編発して筆とり抜
て頗孝字を播毒と孝經乃肯ふおのそれ殺多ふ
事のしるべしこれを撰ぎ又去ぬ

又曰海書志業あり世と憤り弊と憂ふ的乃
人讀ざ或ハ編発興起ひらん心術の精微用功下
乃実地乃ぶ紀ざいまぶ多く論ト乃ぶ
是先師の意かくのごとく是とりて問答と
なりしかども肯ふあり抜ふ卒して後愈
これと義を弦ふ今春又樟ふ濃て浴
ふ抜ふを撰ばれて讀ふ乃草稿乃ぶ
旧年乃清書しぶ乃ぶ隠ぶるを

もてこれを誤字脱簡を亦間多し故に今や
むしろとゆだねてこれを考訂し且前後改正
乃篇を編入し并に叙して御注して師
此志をなしもって字をこれを梓に刻しむ續者
これとりくさ字乃用ひに新なる事を考
へ終に此同者をもつくりなせどして糟徹
中庸と希ひ学むに書乃入法乃階級をもか
つまり乃ものなるべきを漓去て滴血乃賢

一字下

ものく教知乃功なるべきを捷なるべし神て先師乃教
教に隅んを吾黨敬哉

三字下

嘉安三年庚寅夏六月既望門人識

句ト句点スベテ削ル

4 翁問答巻一（原本上巻之本）

組頁本

三行ノ誤

新発問日人間の心だてさまざまありてをこたふとこ
ろその品おなし

日本書刊行會

本

改頁

その私おもひ　そこのふとこ
ろふ見悔混沌ていづまつ去
ばいかに心そこの海ぐあるもそ
ふ人間一生涯そのまの道と受
用し業と仕るべく候や

別行

師の曰まれ人乃方式ふ
ま道と申ス天下ニ乃霊寶ありこれたら
と申ス心ようまりかよおこるよ勇猛ニ
山寶ハ上天道よ海ニ下ニ海ニおさまるを通
ちるゆゑ山たるをもちるを偏ニ
まで偏ニ和睦ニてうとみ神のよつ
まるまで神の授ニさまよ天下とのあさむきけ

翁問答巻一（原本上巻之本）

組頭本

三行ノこと

一

元問曰人間の心だてさまざまありてをこたふとこ

篠間答 巻一 (巻之本上)
国書刊行会

句ト句点スベテ削ル

翁問答上巻之本

改頁

祥元問曰人間の心ばそれぞれ海ぐあるとこゝろ
その私あり[illegible]ふ是悔渥祇していづれを
さだめ[illegible]もあるべき人間一生涯ぞ[illegible]の道を受
別行
用ひ業と仕るべくや候
師の曰まれ人乃生れうら
[illegible]道とのべて天下[illegible]乃霊寶ありこれたら
[illegible]と申く心よりおこるの勇猛[illegible]
此寶八上天道より授[illegible]
[illegible]海おきうるの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うたつくるみなり国とおもひまでおもひあまりて海を齊
まで思ふとこなへだまおさ海りんに
まもれじんはさくるりをしもろひまでは天地のや
うにうりどもあさしまだつぐ心の窓にかくれまに
神如玉極の貴宝也ちゆへ山窟くまもれと
天子はるく海の富とをもう法倭はるく一国に
花とうも卿太夫そその家とおこし士を名代ほ
し信とあり廣人は統穀とつをくれ其こまと
そのしうの思宝とまて人のあそぶけんん
のみりそさ海のなる天地の恵をうば天地
は太虚の神化をおこなれ

と太虚三才宇宙鬼神造化生死しくくはあり
まく包括もそこのそうりくあ海をぐと傳者
乃学問とはまれるぐるみてはたりと保合
ふと聖人と云かりんしてはしてはしてはして保合してくは
のもとおこるふと賢人とはふなも孔子美世乃風を
思ふんそふはあるは我りくあまるぶ読と孝経とは
りあるもとくとも秦代もこのくる千八百餘年
乃あのぐ十分ふくまるのびはくうるんまれなり今大
明乃代よりうくは徳とくる伝教者もるんか
り大聖ものはそくくと保合ちまひく廣人乃
中にも天子はくあにのがりあるは丈まはこ乃あるう

と保命ましまして天帝の左右にまします海と萱永
そこの竜宮とまうすに天武織女織つ時
美二八氏宮と海りく宿禰武天刑とまうす神
京年霊験かくの如くにて伝作して
愛見まさせたり
①別行 祈元日さやうにたくさん海と
より来あまりの事にて内裏人どもあまり廣大
なる乃ちなれども猶くくくく

心育とひくうんうふ孝経抄不可測度大深遠ふ
して。そもそもあるべからざるものは孝経の道と者種よ発明を
さいふ孝経乃感通と。てがくなどけいへで養敬の二
字ま御ましまれり敬ハ稽んでゐるよろうむ元亨
敬ハ上をうやまひ下をかろんぜあれそこの義也孝経
たとへをゆるる境のごとしむふこの形と名よりて
かどみのうちの敬ハ。ふくれどもぱくさくふ
も境の保いおれどこのもとのごとく父ま者乃人
倫よあひまじりるるハ人ぬく敬乃立清を通ぜ
ぜるとこうなしぱくもも犬
既と論ぎるふ先ま倫とりて。そこ敬とを敬まる

試通乃拒むるれ故ふ牛分れ名とあくまれ
名ぶくさて。それまを成通ける業ふ。ふくる
て。そへと。ふ。ふ也二心なく君とを敬まるを
ふくるふ。ふくれ義ふ礼義ふ
ぶくぶくへくるを敬まると義ふ
して兄とを敬まると悌となづく義とせて弟とあい
けいまると恵とまづく義とまりて夫とあいけ
いまると順とまづく義とまりて妻とあいけ
和とまづく義とまりて妻とあいけいふまと
とのつくべくて草用ける形ぬ四肢乃恭重ふ行性ふ法
則。皆孝道ふ敬ける感通なるまるまるま

親切なる反語なれど。いろう爲藏系有代。しづかたづ
のも。勝手代表子まで。こと。よくこそり。よくあこなし。そて
まさ。玉拙代金藏を。聖人と。出とも。ぼつ〳〵ぐくきさの
や。まこと。天二乃要道。母乃の。主藏なれども。下和が
璧とそりて。世俗乃富。とて。きぶく事なけうき。
とそ。べし。

別行

○他元曰。今まで。ハ。やと。よく。孝
なる。人。の。孝。ハ。なり。と。ほ。ハ。他。く。世。俗。さ。や。う
ん。ぐ。と。ぶ。み。と。そ。ど。ま。ま。ど。ー。へ。と。ぶ。け。ば。り。候。へ。
ど。孝。と。そ。と。の。ハ。ま。と。な。く。内。を。な。ま。ば。せ。と。上。乃。ぬ。
理。る。ま。の。り。ぶ。こ。な。ふ。ば。き。他。と。ま。く。ま。ば。く。以。

別行

師。の。曰。元。孝。孝。ハ。太。老。と。そ。り。て。金。作。ら。て。弟。

岡部家文庫

ばかりなく。孝。ハ。孝。ハ。なり。と。ば。ま。く。孝。の。孝。
さ。の。ま。ー。金。孝。圖。ま。ハ。太。老。と。孝。ハ。他。ば。ら。の。ー。て。
て。ん。ら。ば。ん。ま。つ。と。そ。の。う。ら。ハ。前。并。ま。ら。ま。ま。り。ば。く。の
ば。く。廣。大。金。色。る。の。玉。法。な。れ。ば。弟。の。万。拙。乃。ら。ら。
ま。孝。乃。乃。理。そ。れ。ハ。ば。ば。ら。ハ。ば。ー。純。中。人。ハ。天。地。の。法。
万。拙。の。靈。る。ま。ま。ま。ま。人。ハ。心。ー。ー。孝。乃。実。神。れ。そ
ば。り。ら。ま。ば。ま。ま。ば。ま。ば。ま。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。
功。夫。ハ。勇。銘。と。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。
身。る。さ。ま。ま。ー。ば。ま。そ。ま。ら。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。
鴻。飢。る。り。ま。ま。ば。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。な。ま。ー。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ら、父母をようけくるものなれば、まづ第一父母乃為と
思ひさだめてゆくべきなり。不孝の者は、たとへこそ
父母の為なりとも、我為とのみ思ひさだめて、ゆくべきを大切と
思ひ給へして、我為のみをもとめて、たゞ大道一筋乃為をも
忘れ給へる也。さて元来、どこまでも、ありがたきは、みなもとまづ為
さ父母をもとけ父母の為をもて天地をもとけ、でんちを太素
をうけ、太素を神明の命令に、神明の命令を太虚の
為、変化なるゆへ、太虚神明の本体をあきらかに
して、こゝろをばさだめて、為をもとめ、太虚神明
乃りんさいとあきらかにして、為をもとめて人倫に
ゆきわたり、為をもとめて、おこなふべきなり。

乃ごとく為をもとめて道をおこなふべきと孝行の根源と
して、まづ第一妹をつくり君をもとめ、つぎに兄に、妹
をおこなひ、弟に、兄に、友に、伝へ、ゆくべきなり。
孝行は義をかゝげ、こゝろ夫をもとめ順ずるなり。かるがゆへに、
父母をいつくしみ、こゝろをもとめ義と働き、祝儀
祈願、これ乃ちおのれを孝行の業用とする也。
乃ち理あるを人間乃ちゆくべき孝行
こゝろ。こゝろをもとめ、孝行
孝行の私、屋敷、まづ主人、なを親、孝
法乃中法、ゆくべきなり。法は、学多すべきと

も美実の儀者よ。あらばまして愛敬ハ論ずる。
ちうさ人ケ〻〻〻〻
別行 ○伊元日孝行の章に等の差
別行 別行 別行

孔子孝経を作りたまふ事は第二にして孝は
孔子例をもつて先ず夫婦朋友の乱れそのうちより
ひろく孝経の篇来るひとり事若乃一義を発
明しのべたまふ也

別行 仲尼曰君子敬其德と天下の人を
ありとあらゆる人を敬して
てさぐる賢人を敬して軍旅を
けいて黒白をさぐれ官職をさぐる
小国の長下をあざむく礼楽刑政学校
乃ち人をふるこの心乃ち道

と。おのおのその利を利とし。世のひとり
万民を敬されて四海の法数に絶し法
澤
沢しかるのち家ごとに孝子。国これ
一統。あさまり万民。心をゆくその先に
くなれば天子乃孝れ大概
孝行ハ

別行 仲尼曰諸侯乃
ふるまひが法侯の孝行
しくそうして。おごらず。
満つる国相の俗に。
ひろくれ卿下と俗
孔と。たまふ。

法華経乃識と。さて第。ちくさと讃して百
姓と。あるれこ。なるんばく鰥寡孤獨もの。そもしる
きこのとこごろみ國中民乃。ゆくぶあく湯と
えく聞ここ。さくなぐく社稷と。そもしてその之書
はまくあるハ法侯の孝りめ。そいがいする
神別行 光日郷太夫の孝行ハくば
識分り毛敬乃孝法と行きこたるが郷太夫
乃孝りなり心と。そこ。こ。ーまと。さめ般舟の
りり湯と人の。ちくこ。こ。ひろもわざるぬ
揚よ。くはーこ書れためてんのあくこわざ先
乃こもひ。ま。ふるくーけ。ぬこ。利害れもりば

ちくこ為りこ心ようけどおこ。ろ時は天下
お家あんあんの湯りこ。ーこ。ぬ。ーこ時ハ大ねと
なりて軍共と。ーこ。ーひ軍湯。こ。揚え湯
と。ぬこーー百我百揚れ功と。ーこ。ーく。ーく。ーく。ーく。ーくぬと
りらく。この宗廟と。まりぬこ郷太夫の孝乃大ば
いなる
体別行 光日士乃孝行ハいく
こあここ二ん。ぬく。ぬば。ぬ。ぬこ。ぬこ。ぬこ

の孔法藝能をぞ。うとくしてこそ軍陣よりのぞひ。
まうしハ君恩乃義よりあつ時き樊噲とも。あざむくわざの
義勇とぞ。ぐし武功をぞ。その孫位とたりち人衆
記とぞ。海内のうちハ。さぶらいの者のおがいなう
神元日廣人のまりいうぐ 別行 作の日農工商いづ
まもそのあ婚とぞ。おこしこそ。海内とあ。おこしこそ。絹穀をく
ばくじとぞ。ぼうひ費さどもかのうちのぐそくつくしみ
ゐ婚とぞ。おそ拙く拙くとぞ。そむひこそ。書者のを
とと第二ぞ。父母ハ衣服食飯と書一ぞ。あひ心か
を。ぼくしてとぞ。ぐそ。ぐそ。ぐそ

乃而俗と精よへて情しりがかくれいきいろく
清産候也。　別行　師乃曰きやうりくは畢竟八的流を。
あさうとまれがかうくれいれ候ゆえ。心ふ
さ。きうう一念をおこう。あるひハうきまりきりう。
きうとうくう後ふまきりきりとり後ろ。ひ。後ふ
まりきりを後ひ悔まりを考ふとうやを。をそれま
じきりを。あきをれを。これ不孝なり一云きう。
不孝　孝なり。まして不孝の義乃を分ふ。おこるひ死
まりきとろうくきびきとうくこれ死を
なり。やうまりき拙とひきぬり。うるぐき拙を。ちう
ぶして紙数。とびなすぐ。ちるはきう。これりてう乃

ゆ。大ひなりかきなり心ふ。ちうくせんしまりぐき
とうるとはうを。ちうはうきらりて。今まりるとう
ふ。おこなふを倫都のかくりんとう也きうりかく
りんまう人ハたうんなれどもはりんいとうきりは
うう人まれなり
別行　倫　元向曰ふ倫のみちそのあるべう人候
ぐもくりうきとりをぐ。ふひ今考の心清用更
の急勢うくふを。ぐまりうくいう
師の曰倫ハ水者なりけんぐ乃法者義ふうはう
別行　倫　ゆ　ね　ば　みち
教へふ倫となりけうふ人のまち倫ね。お
つくぐまりおくおりなきものなり神ば又典と云

典也。[illegible]字なり又典と人と教化する之教
と云又典乃心のうちよりそれなりうると又教の性しと云
釈と子と一倫なり君と臣と一倫なり兄と弟と一倫なり夫と婦
と一倫なり兄と弟と一倫なりそもだちのまことと
ゆうん也これを人倫と云人間の次第差別こと乃
ようこままり世ろよ人倫ハ人ハ
なきりの也釈も差ハ[illegible]ハかくのごとくして和和親
まろと親の五と云君と仁と臣下ハ義と[illegible]して
君臣ハ交泰まろ義のうちと夫ハ義ハ
[illegible]ハ順ようして夫婦ハ和合まる義別ハ道と
云兄ハ恵ようおとくハ順ようして兄弟ハ和睦まろ

と序のうちと又友ハ[illegible]のまことなり。たゞひとりハ
まりなり。たのりくようおそ[illegible]むと伝乃うち
と云ハ釈義別序伝のようと又典と又人ろ恵
ようハ仁義礼智伝の又者乃性そなはりて一方
の義ハ[illegible]。この又者乃性ハ[illegible]又典のうちと
[illegible]ハ釈を仁ろ者と君臣乃義ハまろ義なり。
夫婦ハ別を智也[illegible]ハ序ハ礼なり。朋友の信ハ
なりもち伝なり。又儒ハ[illegible]ハ[illegible]
人ハ人倫乃五と又で皆[illegible]ようありて[illegible]心の中ハ
なりとものなりとそなりおさまりさ[illegible]ひ也天地
なんぬりれ神乃霊[illegible]ハ造化まろのろ

まことの心乃孝法あさましうなれども
ゆゑ西海のあさましうなるゆゑ
ゆゑ心孝法のうちよりあるものゆゑ
方はうまたりあるとも
はれもうまなりたるゆゑ
外面のうまのうちゆゑ
うそいつはりそ内外
うまうまはうはひなり
傷ぶれども又典十義
人間百行は源人倫第一の
又教一又有教と身一は
ふせんとぞ
常乃もとめ
とけ十病
あんなるべき
こ孝
つくほど
ほどは
とぞ
ぞ乃
まとも
乃方
あるべ
あるこ

父母乃恩は
月のあひだ
病乃元
孝
の時
心を
幸乃
一命
親
方
屋
衣

ゆるみぐしよりはじめ安穏とおもふるを[若]
をうしなひ。[念]ゆくすゑ。[悪]ゆくすゑ。[悪]
ゆくすゑ。かつてんとなりよ。乳母[悪]
母乃養育そのうばをもつてしたがひ
まばゆ。師とをもひたてまつる。[悪]
人はまくまんとまつ[悪]
ゆまでも。伝儀をもつてあ[悪]
孫孫ゆ。そのゆ[悪]
ゆまでも。[悪]ゆくゆくは[悪]
法[徳]人はあるべき[悪]
どなげきとなりぬ。[元]

ゆゑなくはれ[悪]
までも人ゆゑ一ゆ毛一もゆゑ[悪]
孝義者の厚恩ゆゑ[悪]
んとするもあく。[悪]
[悪]ゆゑ[悪]
[悪]
ざるとみ[元]
恩顧不肖のゆゑ[悪]
ゆんとをもくゆんとをも
ゆんとゆゑ[悪]
ゆまでの[悪]

孟ありて父母のおんとしてかくれ給ふ
ぞんじの形ありて法の日乃ぶりらく
四の冨より海まで山ひとつ
毋乃厚恩成まく祈願して一級のれんよりくだて
みまもて。おんしくのうちもれ法の日の月のあさ
らうあして父母は厚恩とひとしくひんとも山の
孝会かぎりあく寧養をべし。この一会をりく孝
行のこと。孝経の鏡と鑑とを
そなへ成おこなふ乃大孝成変用まべし。昊天図
極の厚恩をもとまて。心の色をつせをくさとまとい
こ。ましまひ乃ぶり紀き。名けざものとおとまり。

きる反嘯乃新をおとたひ羊を跪かりやまひとる
ア。おんぐんの形をあらるの恥めるべさこころ。
心のやうに海ひく孝法のうきあり様とはら
しかうてれ人れ海ーのしまべ。まこえ和
人乃ひくく富貴と長のものとだひへ。
身一も孫ひとれど。富貴と求ることとる。
人ぐどりうくうやまひ追法ー。恭公乃こう
どうけてを法恩して厚めるべ。父母をどある
ありあひ。一云れ恵とうあてをこ家ぐ
いりけ法うてあさまーあうひハ父母ーおし
くく書あ成完憂ーあうひハ父母とて

子と成（や）なりしかども、この男、穀（こく）乃（の）蓋（ふた）あるを、
く義（ぎ）を尽（つく）すあそび、ひのきづ、うしろ、孫（まご）思（おも）ひ
ざるときれども、ひまなる高貴（こうき）となり、もし和（わ）たより
となれる人をうやまひ大切（たいせつ）なる八我（わが）子（こ）なり。
慈（じ）あるこころくなり。素（そ）姿（し）と容色（ようしき）もろ、ぶ
月（つき）のごとく成（なり）ぬ。さて乃（の）ひ仏（ほとけ）を毛（け）もろ、
もう分（ぶん）とけうゆへなり。この男なけまで高貴
乃（の）外（ほか）飾（かざり）とぐ、ぐ、きらびやかなり。素（そ）姿（し）とた
のしむべきものなり。きこ子（こ）ようけあうふべき分
ふし。高貴（こうき）もさいとりこ子（こ）もしかありてその者の
しるべ。この男（おとこ）ようこうこ人（にん）父母（ふぼ）也。父母（ふぼ）なし男（おとこ）と

孝（こう）ゆへ高貴（こうき）の外飾（かざり）とも、けいせいのたり
ようとなり。ゆ成（なり）たとけ、もれた。
富（ふ）者（しゃ）とぐ、ぐ人乃（の）ありん。
素（そ）姿（し）の、ぐ乃（の）ようなり。こ乃（の）ようこ、ようこ、ようこ。うんかん八父母（ふぼ）なかん
なり。こ乃（の）ようこ、成（なり）ぬ。
ゆ。ぐ

擬作

孝を不孝と云ひ悪を善と云ふ輩の人ハ世にまれ
人なりとぞれ世にまれ実に人ハ孝ハ
まハ神ぬの冥加あるべしものゝ歌の心なるべく
不義を道の撰化あるべ
あらがんぬを笑ひ
ぬきまひ乃うち礼海
しくあるけぬくあ
まこと肯用のあり
りくしゝべ
ひとあるまを
もきて孝行

あくあてびせうたりまりなりて海
まありて孝子あれ大壽のおこなひ給
あくまく神祇まべし昊天罔極のあんあるさあや
と色欲ありたりさたち極きまの人々用ゐくたひ
なりたをあきまきまの世ぬまひぬき人々
かるのしば天冥をうるうるやがそれはくしひべさ
まりまりの象用はまるあまとをどもを畢竟ハ
二ケ条ゝつぎままり第一ハ父母乃心を安樂る
孝行ゝまるまり第二ハ父母の為をくうや
まひ座りあるかり父母れん乃安示なる孝にに
をを行ゝまるまんまるを方とあるをめこころと四

ぬ人となりてそれぐ〳〵はぐくみそだてひの
ちゝ紙用と貴きをれたる父母乃心ゝ
あひ奥窮よりとしぶべきあるれなり
あるとうく数他して
楽をすして父母をも敬ふ
そひきあつてうど兄弟一族和睦
ぐ父母乃国ゝ相見年〳〵
ひくなるものやうくあ
うゝきくひくゝ十分
ゝみど家力と書よの
うらして乃食物ゝ滋味
ぐらやうりまき父母
ゝ父母の威徳あ
紀々是他利害
ゝ父母ゝ
ゝこゞめ書
ゝ
ゝ
ゝ

ゆへなり父母は天年うざるまでありてなげきわるまと
うまつりしほうの時も紙はぶくしてひのほうし紙はぶくして礼
法とあるく葬とたゝ喪にあて衰服とはぶくして家
為祠堂とたゝそく思仏に節忌日
ふ1諫敬をはぶくして合奠はまとあしさうひろ
とき代まゝ云なを教乃子を慈愛をはぶくして道義
をしへて子孫繁盛なるとなる為庭乃
苦労とうさうして子孫ゝ育てあるとは
恩の愛と云姑息乃恵とを紙積乃愛とを半の
子孫をつくるたゝくうちに姑息のをへさうして
八慈愛1似れども氣隔よりて出もあく

地もおくりけざるのおもくなりあまで畢をを
子孫をくうて何さ道へひさつにあれどそのうへ
わるをおやゝうあれど出もをもちわやは力なる
おやにうけうるうる力孫をけくを代力とれうも
のあれど子代力をこんがんはあやの力あるをぎ
とうるをくて何さみちへ孫きうくはあやの力を感
庭おゝしいくにとなるはうゆへよをもくをへ
ざうハ大子孫乃第一あるさて又の為代おこすもを子
孫あり家を庭ようをを子孫あり子孫ようをあへ
ぎして子孫の繁昌をりとしうハあくてあこ
ゝ孫孫ようをゝゝ子孫乃う海まつきさ海ぐはの

て一概にそしへの法をとりんでがうしをのべどもまづ
乃後をとへて心しを孝行法をなさしめをるんとぼし
へ乃振ずとは衣嚴人よまとれをあ母をまして
ねじけて
ぐんぐんのかまれあるとをもとろあ母ぬ
ちんの孝法をきをのハそんち鬼神のまくこをとて
まふをとろあれど一丘えいぐをにかとろとのへどもろ
らば一代二代のうちよ孫逐をちのをたとい
ぜろあせざれでもあるふなをを人ぐうをを恵の
世樣この人ををりて御孫せされどをたをにひし
まをろ人を服ぬ一たんの高貴かまれをあを
乃をのなりとをひそをでめるおりを紀法の

夷宮をとも振あるとも志ろざる世をたるざ乃志何ぞで
よをけまでをのハるにもをくねをのなりとおるひ
年未見把ををみぐ紀上のたのをあるを事を
志ろば年下よ儀まををて子孫よどをゆるよハ幼
おろをを紀振ををひをハ脇教をて脇肉よ母ある
ありぐをを母法の教他あるを海時れ人を紀程を志
らぐろゆへよあをを紀ろををへハるををのあるを
思へり教他乃夷宮をを志ぼををて中をををひし
反ぬるをろをあへををりおをろををををを海ひも
振ず夷宮代教他ハ法教なりををををををへ
をして我身をををみを紀おををひをを人ををのを

うゝ変化まう絶滅義といふたゝへ[水]ら[ら]れ拙へうる
[ほ]ゝ決ありのをかまをかが[ま]ぶ[ま]ぶ国土の方角水土
の風気ふまつく人間の[ま]れつきをてい[づ]ぶか
りあるをいへども[ら]い[京]通つきよハぶ[ん]ゆ[ん]ゆ[ん]の乃
[しゃ]あ[さ]ゆへ[お]ゆへ[お]ゆ[ぎ]の[ら]ゆ[ま]ぬ
まだ実[ん]ま[ま]く生れ[ま]るものも京ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ
くらんこうまくそぐ[ま]くぬまだ京ゝて生れ[ま]ゝ
りのも実ゝゝもよ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ
ろぐて[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ
とんあやうきゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ
ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]ゝ[ま]

さてもさてはきそれぐれ君の用ゆるとかたいそれぐく
の運命どかんぐつく年分は生理士農工商のみちを
孫子きそひべしこれ子ゆゑ大方なり親の
慈と子の孝を天命の中道とのづからあるべし
ならゆへ聖人又教のもとゆゑ父子有親と後漢より
義を仁と礼を義とつくり君臣と仁義
理とまつぐひ人を安
きをひて人をうやまひあるごとく法なり臣下より
夫婦大小のこころあるさ海
なきうりかとゆゑ君を畏怖を仁礼の二法より
行ー惟天地萬物父母惟人萬物之靈とのさまふ法

ハむんうんをとぐく天地の子なれば人も人の
のかくらあるのをれ君臣なれ君をもつ
歴人を法と一家中國と一人とあるをもを
人のねぐをたてを者りぐくをあれどりあれ海
ようがんぬの心なり稟性の厚薄をよりまく君
となり陛下とハあれぐくんら骨肉同胞のとをり
まもたをひわが技技をあをのなりとをにくみあるを
べきをふあるば海てあるべをらをもをのををくをも
情ふくく礼義をくをくあれどりかうーむをう
ばるを程あをうり形り大臣ハ家のあせ君の臣心
まだをうを位大孫をのくあをうをれとをバうちまう

せくもろもろの世礼義さうぞくうやまひくくなさけぬ
くあるべしたゞ〳〵刑賞賞罰の乃掟をだにかりそめ
にもかゝあづかぬりのみ大臣より下たる士に至るま
でくくぬんくおぼえ乃ほとくくなんぐ
して表裏よりあるけ乃ぬくなるどりう乃ゆゑそれ
ぐの罪科にくくうけくさーつゝ忠義乃
ゝそゝの大小程度をあらはしこれ乃ゝ
ゝへ位をあげ或ハ加増して能ある乃ゝ
ゝに士を国の録にみの仇をうるゆ
ゑに士を国の録にみの仇をうるゆ
ゑにさるゝ勇たりて農工高ハくたの宝なれば
一日ハあれしごくそゝてゝ利をそゝてその利を

ゝなれもやうよ改とたゝへ君の仁礼をおこなひ大小
なりゝ法下ハ君よりつく君よりつくゝ君ハ二
んあるくひとゝよりよ君のためのゝ思ひ人世れぐ
分とゝくゝ法ゝあて光をとゝて世ゝ徳なる
ゝ世ぐくの位ゝつくゝ世ゝの大小の差別ハ
まゝ出乃ふ法をあぐゝゝのなり君乃あんハおや
の恩ゝ世ゝくあり厚恩なれどおやよりゝ
ゑぐくゝ心とはくゝして世ゝまるゝ親ハばゝらを
ゝゝ者月ゝゝあんなりゝ君ハこの身と屋ひとゝ
あんなるゝあやあけまぐゝ世身なゝ君ゝけまぐゝこれ
身の屋ゝあひゝれいのちとゝまゝあんなれゆく

まあやうきを見ながらいのちをすてゝ事を成すること
大臣の力量にこそ大なるゆへよ大力と云小長谷
大臣はそのとしはさきゆへよ小力と申す君の
ふかくよりそこも君のふかくよりあるべ
しよ紀事にもあるなんのかゝるべきおそれ
なうよくいさあとなしこれ乃むし事
なりとて家をもかへりみたまはずに
くいさあてしもんの力をもちみちにかゝ
ゆとみ様をうふるをかゞくこゝろ
うしあるひ入るが分れたるとこゝをこゝろ
多比千のいさめて見せるの力を海の里わが力をもてく

君のくあれと第一よりとあるとて大力と云ハ是ハ家老御頭
乃力量をもつて是ハ姫君をこゝろ君まんゞ
なるをこゝろ一ゝよ君をこゝやまひ力をもてこゝ
ぬくの織分を勤仕をもつて小力と云これを小力
なる臣下の力量をもつて軍力をもつて海をもれで二
心なくまことをもつて礼義をたゞしくまこゝろ
く英雄の心をもつて軍兵をおづまをもつてこゝを幾
ゝうちよりゝ勝こゝ紙子里乃内に決し首
戦百勝乃功をたつる紙大力こゝ足ハ軍大力
力量なるゝこゝろをもつてこゝ力をもつて紀伊
陰とゝ行き首をとる紙小力と云こゝ大力武力乃

ちゝ母なりそれまこと廣人をば刺史長官にしゝ
そのゝちに居く產業をなし生理をとくるふ者
主敬の恐慎をゆへよりいろ〳〵ぶるれどもこん
うゝ云なりその國の志を法度をくまりたる乃
志をくゝとゝくつゝあそ年貢公儀を惰怠ぞ
一心の忠義をおそれうやまひおろ〳〵廣人の恵をあり
君ハ仁礼の法をうしまくびに駿下を使ひ長下ハ
為敬乃ちゝを後りて君をふまつり君臣交泰
もゝ乃程天命の半絶をのづゝある義なるゆへり
又義乃第二り敬風嘗義ゝゝを海面り
天ハ和合を貴とゝして書をとゝぶなふ乃ゝを和合ゝ

和合ゝゝ法あり義ハ理ゝ義利ゝ抵
為をえゝび其ゝ法あり大抵失海乃あひゝ五を
敬のわゝゝよあひ義理のまいだんなる法ゝ
あゝひハ親子兄弟骨肉のまゝゝひをも云為ゝて
ら是ゝゝ成ひゝびあゝ人ハ為を為ゝ国をゝし
なゝ人その故来そのゝ法をゝゝまゝゝに吏掌
のまゝゝりそひきくゝて他法ゝゝゝゝゝゝ
里ゝれゝゝ人心のまゝひありゝれ書ハ先世ハ編
孫祀の為ゝり子孫おゝ孫の寓ゝる不人偏ゝ乃
牢獄ゝれゝゝゝゝゝび和合ゝゝゝゝ勿論なり志
うれゝゝも義理のさいだんあひまゝ主敬乃わゝく

しるべき道をそむき別れたる時は妻をもつねの
ゆへなく和と義とのなさつとあるをもつて夫の妻とぶる
ふるまひは書に順正の二法をもつて夫は妻をもつて
を以て心ざして柔懦にまかせまかせ
まことをもつて和にたがふこと法なり正に義理をわきまへ
たがひに海内法なり書に夫と天とをもつて夫乃家
をもつて妻と為す夫婦一体のことわりなるゆへよりて
生乃父母をもつて父母とせばしてかつこれ父母をもつて父母
をもつて事一つ人のさだめたまふところなりて不易の
天則なり志をもつてゆへ男性よりなるゆへ
乃第一ときて貞烈乃法を法なり女子のとくに

めさるべきことをもつて下知をもつてこれを家のこと
しるべき孫をもつて家族をもつて和睦しあんとはば
ことは婦法乃大なるゆへ夫は陽法なるゆへ
あきらかに義乃をもつてあきらかにして法いさぎよき家
を法法なるゆへ内をあきらかにして妻をもつて
りをもつて妻をもつて法をのこ
くのごとくにしたがひ男女陽内乃区別か
和睦して和親合同をもつて父子兄弟乃孫法を
守ることは乃理天命乃中法なり夫婦乃みち別を
又教乃第三なり夫婦有別と説法なり
第を持ちて兄弟法をもつて和睦をもつて散ひ

ぶんせきなり他人乃そしりおいそこるたらさりぼうよ
ふ是あるべきことわりなり他人ことも老くるとうや
まいあるべき乃理乃道理乃道理なりまして我
ようさきだちてうまれ兄とうやまひ老さうよ屋き
こうち弟ん乃兄ハ恵をもつて弟をひきゆ
ゑとして恵ハ義乃二義をもつて先きあやま乃
手紙をもつてとくよ論んこうよ秋と云友ハとも
のたぐひよ切磋琢磨をもつてとくとそ人へあやまちと
い海ゆあ志渡をあきらかにすこうふとう根よ善と勝ひう
を他人乃とりわきくるゆやしきにまでつるを
あるべきとりなり他人へとそもいやしひあきり恵

とはとうう被よなるけぬくまうハ乃理乃高尚
なりまして身ハあやの方をとけく分形連業の人
乃れど友をの恵を用ることをべきう自滝の義也この
乃理あきらかにしてあひをこなひべきき事なく論ども
世上のまうの人とうれを多分兄弟乃あひだ他人と
ものあるそうなりわづれようのあるとひとそうきれ
ちひとむとをあるを分形連業のとりとをべわ
力にて我力とそこなふありて海画藤乃恵おさ
ゆ志事なるべくあやれ力をもて生まさ
れをの乃れども先後れ序にまうく兄ハだうとく形
ハやうさ決身ありて恵情乃乃序をなそうてれこ

なんとかり天のさだめ給ふ法度にて
ありる給へるまゝ義の第四に出幼有席と法師より
明友はたゞひとり伝へおまぢりなんとし伝ハ
里多く義理よりあるよ法師より友達ハまぢりて心友
面友の義情義ハ親疎を論ぐ有ものゝ幸
義ハ人ハ伝のこゝろを中したゞひのこゝろざしあれど
くはぢりなんむと心友とハこゝろざしあるこゝろが
ひねまでも筋目あるゝハ同じ隣あるひハ同友同
職などゝ云さいく おまぢりて こゝろきを友
ふゝ一用ある人を面友のうちより心友面友ともよ
情義ハ親疎の別ハ

ひく感義うやくしく接投和厚あるて ゝるりのく
りちろん紙来のとゝろも遠義のさゞ伝のこゝろ
乃大ぶなる世信をわゞ心よ実よありひ人ゝとゝ
とゞ是他音恵とまゝ伝ゝとゞ伝ゝりと思ゝり大きゝ
ひねぞこゝろひなりたゝひ実よありひ人ゝとゝふ
てゝも義理よかゝを伝とひ実よ思ひ人ゝとゝる
ゝもゝ乃ゝとゝむゝとゝるゝとゝ人欲のゝりとゝ云りの
ゝり世上の人ハまぢりゝとゝ信乃ゝりゝとゝるひゝ人ハ
まれなり伝乃ゝりまぢたゝるひねまでたゞひよゝのゝ
乃用ゝもゝまぢりのゝりまして世俗の義あれど紙宝の
用ゝりゝと自論地ゝるゝよゝもたゝりのかゝを

[illegible]ふ法あるまさて四民のまゝとせあてた
ぶよ[illegible]の靈験[illegible]むらが[illegible]
明徳[illegible]のまれを人[illegible]れ[illegible]の天道
と父母[illegible]てうまれ[illegible]ふりのなれ[illegible]
てみまば他人[illegible]とも[illegible]同胞[illegible]と
[illegible]ば[illegible]ちと[illegible]の[illegible]
肉[illegible]ひと[illegible]ことも[illegible]
[illegible]あ[illegible]理なれ[illegible]の[illegible]
[illegible]

別行 [illegible]元日[illegible]人[illegible]

別行 [illegible]の日[illegible]
[illegible]入[illegible]父子[illegible]新八[illegible]の[illegible]天[illegible]の[illegible]

[illegible]義[illegible]大義明倫[illegible]
[illegible]化生[illegible]の[illegible]
の[illegible]倫[illegible]
[illegible]三[illegible]
さて三[illegible]父[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちちをうやまふ第三番は夫婦の分とそれへあるべし
兄弟八天倫のちなみ並び骨肉同胞のもとゆへ
第四番は長幼序とそれへたまふ朋友八異類同
業の兄弟なれども天倫同胞のちなみより
ちかく第五番は朋友有信とそれへあるべき
まことなれば朋友ちかく朋友乃信を
深くまもりたまふこころざしを孝八三教乃主要百行乃
もとなりとあれば又典籍乃教をあらんこと
よりの教をもとめてさて孝経とおき
給ふまもるべ八朋友乃義をたまはりまるる
とたのもしたまふ朋友の信をかりてそへ給ふ曾子
乃門人輔仁と云ふもこの中より事竟五者
これまれのそへ給りて乃実のためかの典十義
を引て孝経とまなかなる心法をくく変用乃べし
御別行 元同日今生八乃位居して乃倫のまとり
幻乃ごとくなれども又典籍
ちのまことをもて候へたまふ
もとのごとく又典籍ほうこと
ぞんじ申さうず
別行 源乃曰それ八孝乃義倫
きなるものにうるひて候
みそ〳〵まこと骨髄とそへ生元明

せうの老幼をもけてくへとこれをうるその被裂乃恩を感
人美徳をあらはけんをまひそれ是を仰くるに恨しとこれをの
見かんぬの慰可をくべきものかたくべくこれを感
人乃みちをもみまたあるこれをしてこれ候あるの起滅をゆ
めのごとし海かるしのごとくなくこれをんこれ候
作のこれハ心法の善悪の生滅たる縁無合とあるべし
く義幻のおもしとくこれをんをあさまをきなやまを
物祈ものを事なり夫者法ハ中和を体法をこれ色
数をなす美しき方寸のうちをもつて太虚をり
充塞しこれ合を包羅しこれ上ハ皇風乃法をこれ下
を安穏に未来永劫の為なるの者なるな

く上をもあるく所をもの祝祈乃なるゆへ之証あるとを
はけるゆへ法をもるゆへよりめ修乃これをもれこれを向上乃恩
ちを向上のみちをもれこれをもれこれを倫ものこれをもれこれを向上乃恩
位而行不顧手其外二下學而上達をもれ一貫乃心
法不貳の妙理なり現在者法乃又典を得ふして
別を向上の一路をもるハ学をもれを明をもむき
て所をもれこれを捨ることをもるこれ聖人のこれを学をなのき
あるるのごとくふこれをもれ美をなをなをびそをあるをさやう
をあさまをきをうをさをびあり傷門をへくこれを海をもを愛
をこれ人をもを第一れ急務をこれ候
祈光向日世間のごとくをんをもれ人をもをるをあをして学

同のもろ〳〵いとづき蓋あるにうるて形楽なく
美風よりなる人あり〳〵みな〳〵り別雜かぐやんさせ
わが海〳〵をそ〳〵はいく別行 神の日にんぎんの
生れつき海ぐあり〳〵ひとも大ざっぱのあるわけハ
大形よ浦まり醍人一ふ浦人一ふ知恵一ぴん愚
者一ふ不肖者一ふ凡て人品のうちこの人品のうち庭
人生気安かりてかぐやんせどして漁をきりをを
あこのひ毎ふ人あり船ハかぐやんせきれば
海をきりをあこるあ〳〵ふ人ふ生れて漁を
きりをあこるぐれば人面獣心してかこちきにん
ぐんなれども心をけぐ〳〵ものやあるどしてあ別雜

是れ非理をもうなひ世俗の後ふ人乃ち我
もうをたとつてくいあるまきこれもかぐも
んハ人間第一の愚物ふしてあるそ人
ども正直のかぐやんハふく知てそ人
まるの人をもとあり世間ふとりをやを学問ハ多分ふ
せてかぐやんせけがくりんをとれどなふ乃善をたくか
為のくかぐやあくまを美風よなりのありかぐやんふ
正直質朴なりあるそ我まきまをあり人ハ不審を
むしかて候 充 神光曰かぐやんきれひとつなるを
し候 陳候人をあるふ正直と質朴と二文あるまく作用せ
まハ候ハいとの善邪まくやを 別行 神の日正直の

がくしんを伏機乃ごとくにして傷害なりむ
うしはそこなはるもがくしんをはなれ正しきうどんの外はなし
しかるをもつてなりくるしうとかくしうとふと
えびをぐるも学問はすまじきものとおもひ
がらなりて正しきを裏激とおもふ
も一さいはなるものどもうけりて正しきをもとり
うなひうる事なりの正しきと海をひくさんまひ
そこなひあるものをれたまはしてもの学問をし
てハ心をだてくさりなりしくなりぬるもしり候
体 元日ゆ格乃がくしんとゆんハかるさきをもと
うしはあるべくく正しのを紙ちりもうとおもく

人をそこなふ事はなくはなしや候 ロカ行 沖乃曰さくう
まさなる心おあるまくハまくんがくしんハ候ハ正
しきと信仰しまるびあるとかを損拙とする利よ
くをかりもむる心を養をもけまどもはれはくさと
羽ひと志をまさ海ぐくクりあるふるくく心をう
どゆくんかさむさまりて我の心よりまるまるび
ゆうくろう紙正しなりしと実をりはひねまど
も正しと海をびえうん人乃まるこるをみまもれは
てまねしりて候ゆんはに正しくとまるび
あをも志しまるうちどひなまてあるうまるまま
みんゆうくにせてなるまんじまるせとまるわ

て。辛酉星乃ちひとなるまとあり。あらゝあ
れべし。神元曰。せれがくりんハちかくまく
おりゝ海ゝや、神乃日先ゝ〳〵ゝ。がくりん
がんいとゝまゝ。西美に世れさゝと。乃ゝ
むべしゝゝを。がくりんも。天乃と。振飛準的
まゝゆゝ。りゝうゝまゝ。夷國ゝも世界乃ゝう
まゝゝゝゝまゝぶとゝゝ。天乃神理ゝゝひ
ぬゝ。紙正美のゝゝ。儒学ゝ。儒教ゝ。
儒学ゝ。ゝゝ。天乃の神理ゝゝ。世ハが
くりんゝゝゝ。ゝゝゝ。世ハ。儒教
家。楊氏。老氏。佛氏。ゝゝ。儒乃の書

拙ゝゝ。刪紬ゝ。ゝゝ。漏洞章ゝ。ゝゝ。
耳ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。儒乃乃至公博愛の仁を
ゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
楊氏ゝ。ゝ。ゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
神易ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝゝ。
乃やこのうちして。日ゝ。ゝゝ。
ゝ。儒。ゝ。佛氏ゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。儒。ゝ。ゝ。ゝゝ。ゝ。

くとぐくもとあり此此意味とがくりんの仕様まてこと
万事乃おやまりくなるまてり事しみ意味ばなく
ことにて候

別行
体元曰祀通綱夢のがくりんしとはい
ようなる学問まてゆ度くや

別行
師乃曰四書五経
その外諸子百家の書とのらびしみあり文をか
き詩とはまり口耳とかざり利禄のもくめもとのし
てん乃驕慢ひとあるきと偽儒の祀通綱夢のがく
りんとゆなり

別行
体元曰正義のがくりんまてい
ゆ度くや

別行
師の曰まず明法
とあきらかなる式ろざし此中しまてこと
四書五経の事掃拂し捷男を塩礪

君とあるて明法此寶珠とみがきと等此孝此偽
乃ちらの意義をよくあきらかなる和と保合して利貞
なるれば世すり亀てりちいくこと義あて四海とた
ぐ天下とあきあ伊尹太公此事業とあり世ま
あるぐて窮まる時ろ此ちらそのかとうくく性と
盡
尽
命よりてり孔孟此義此教化とるとかくこと
ものまるのと正義のがくりんと云あり

別行
体元曰偽儒
乃ちむ乃も四書五経を学問
て候はば
かくりんとさのもとちぐひはあるまぐきこと
ひとむ乃和のあるのぐりのまそ以ひぐ偽儒此がく
りんまて意味とくりんまてあるこ

候はば

まことをあらはし
ぶして志心遊乃義到しまけがうく候へばみん
もむきて候四書あ経よ心と遊と別法と云事
しやあるあり賢愚乃字ぬのぐあまへ辨と分ふ
そのひたまふすとの云と遊と云そのほのぐ分ふ
むこのひぬまふそとの軒ごれ忌音と心といつも也
心そ意所を使ぶ学問学ぶ奥りして学ぶ事ある
まぐろ少人よ只あくまでうとかきつけくそのあと氏
うらよ梅くまそれつく後世ぬと一とるせり我のあ
とのうらよそれ乃りて心と学ぶ経のら別と以よ
ありそのあぐとうさのせうう学ぶ乃文字ぬとう

と別法と云なりそ別法と海るびとあとくく
きまへ者の心をしくうりのあてまんの師範
ふ意と激うし心をうくくれど聖賢
れ心をれうまが心とたり我心をおうちせいんの
心にたがハぬ心聖賢の心よたがハぬれど云行ふ
いち歴賢時中ぬ言ふふそむうひあうよ海るよ
と西美乃がうんと云なり歴賢ぬ経の心と以ば
みうして我心とたがしくうとハ始終とおうく心
乃うへ氏学ぶれど心聖賢を云なり心心そみとうく
はうあまてと平人へうり智人へのくあるいうもの
にて候ゆへうまる聖賢ぬそ云なり佞偽ハ別法ぬ

うと耳ふ賛あるべぞふ云まで〻しく迎の様義を
えわきまへざれば〻まして心とうて師匠〻〻
拙の中も見ざるゆへは写書あ様とともに学ぶも別法
と沈潔して口耳の学ばりそのたぶりそ心ざも
せの事徳に自満乃場のあるべきものなれば意
きるべきて和てあるべきの事ひ候不愛四
書五経の心を師として我心をそうとるべ
きを心がけずして博学ふかれとのみつとめも年
〻〻学ばるべきりしく学ばれ
心をやしきばして学ばれも年月学ばれ
ば学ばいかばかり博学ふかれども博学

ちハ学ばるべきよりうるれども学ばるべ
きより学ばるべき心遣利益のやうあるべ
き弁ぬまだあるべ事地〻〻
事いとばして分ぬる候
①仲元曰学のがくりんを博
まるべ候ハいかるべ意あ
海内たくんぶ山
拙られた心あるべに力あ
ゆるべるべねはなくい
まるべあるべ〻も
られかぶの意あるのも
海とうしば候
①仲元曰あ意ひ心ろ
ばかんぐんれ移ひふあまるおり

まことにはぐくまるるところハ如法功業の人ゝ
富夫ぢまゝ心のまゝ
ぐりんこそ法功業の人ゝ
ゝてハ富夫ぢまゝと
ありまゝ
ば新ゝハ羅瓢陋巷不幸
ゝあるひ人ゝ
のまゝ
伝ゝ
迷ゝ
ゝ
ゝ

まひてもせうとの為にとて系つぎ
ぬ小泰[甲]とありてがんぬ[凡夫の]ぬ
高麗とをなじくすの[みち]
すまひなりびこれありひのまたなる冠蓋よりあるべや
貴人の[ふか]ぬ[ふか]ぬ[ふか]ぬ

はいひげ事ゝくおかて海や師乃日教とゝ
ゝひとゝゝ八司徒教皮ゝ屋ゝてきづかいのおほさ
なれを辭ゝてゝいゝ候へどもこゝろ分のおこ
なひとあゝ駄ゝうゝひげゝあるゝゝ駄ゝゝゝ
よゝ候へゝゝ邪志傷ゝゝいゝ心ゝゝ分ゝあゝゝ道
なゝ紀ゝゝ又教ゝゝゝ仕ゝふゝゝて信傷志ゝ機
あゝれゝ兵業ゝゝゝ候へども教ゝゝゝ
げゝゝありと知べし

翁問答巻二下

翁問答巻二本

翁問答巻二

國書刊行會

翁問答巻二（原本上巻之末）

▲身光問曰武は車の両輪
ゝゝゝ

ぼハひが事ゝ
ゝ
ひとゝ
なれど
なひとあ
よく
なれう
あるれど
ゝ
ぼ
ゝ
ゝ
ゝ

義例あれば武なり紀文も武実乃文よりいでば文なり
武も武実の武よりいでば陰も陽の根となり陽は陰
乃根となるごとく文も武の根となり武も文の根となる
なり天と地と緯して天下国家をなすもの
めてもの偏ぶみちを辛でうもう紙文といふ天命と
あそれざるあくまでやく世を道乃ありあるとうあ
がらう時あるひは刑罰をもちいてあるひは軍をおこ
し伐して天下一統乃治をなすと武と云もる秋故
り武を止とるの二字とおなじく武乃字をはりうり
文乃をおこかりんためれ武乃なれば武乃根文なり
武乃威とらうそあさりる文道なれを文道乃弥も

武なりそのかう義すよ文武ともにこのうり者
持乃道と半でしくおこなふ武文なり半体も伝
乃さりとなるものを通治してはるあをこなふ武
なりとくで武文は陽ごりして秋冬乃陰のく秋
冬乃陰ごりして春夏の陽をけまで第拍と生成と
また生化成統まるなす陰陽二家とやるうおりと
いごとを本来同一元来乃流りなるごとく元来文武
同一乃流なれば武ごりとくを紀ハ秋冬の陰のふ
して武文の陽のごりして文ごりして武なり紀も
武文の陽のごりして秋冬の陰なり紀ごりとくを仁
乃美名武も義乃道は美名なり仁と義ハおの

くん性の一法なるゆゑに文武ともに名づく一法はし
あて名別なるものゆゑに仁義の法とよくさとりて
文武のさとりあきらむべし仁義はさきなる文ハ名
さ文なれども実ハ文なりなるゆゑ義をもさきに
武ハ名さ武なれども実ハ武なるゆゑ文武の両味
とよくさとりわけざれば心乃闇ゆゑ諸事のさ
ちりおかるべしさてまた文武の法と藝と乃本
末ありて仁さ文乃法ありて文藝乃根本なり文学礼
楽書数ハ藝なりて文法乃枝葉なり義ハ武の法
なりて武藝乃根本なり軍法射御兵法ハ藝
なりて武法の枝葉なり根本の法と第一なりたるゆゑ

まるゆゑ枝葉の藝を第二なりなるゆゑ本末なるゆゑ
文武合一なる我実の文武とゆゑ実の儒者と
也文藝ありて文法なれさ文乃用をもゆゑ武藝
ありて武法なれさ武道乃役をなるゆゑ根
なるさ末乃実をもとぶとあるゆゑ第一
なる花車なるゆゑ文とゆゑ
くゆゑなるを武用ゆゑ
さまざまさ奥のさなる国論なるゆゑ
うゑだるゆゑ武勇ひくくしき人
あるゆゑ流勇とゆゑ世ゆゑ武功あるゆゑ
見るゆゑ大概この流勇おもしろけさあるの

やうもとけく、こゝろうしてはゞかる人あり
こまを筆質虎皮と書くへうひつゞきなりを
みこゝろうさ俗屋ゝうるの書ざりの迦虎ハ人をもぼ
りのをしくこゝろをたけさ默なりひつゞまらうの
皮をとゝせくみまたこゝけそあけくをきまゝそれゞ
もちこちらひつゞたるふよりくえけまちびく
いとあさましさ毎ゝひなりと云こゝ物ゝうむくの
ごくの毎ハ服あゝ書ゝ目ぬまゝ
人をうまれなりこゝみくゝう

別行 ①仲元曰ゝ候はゞ武藝
又藝ハゝうゝあゝのまくゝ武藝
さんゝるまくゝはなをとをそ

別行 仲の曰それハあ

ゝひゝとなゝとゝふゝゝくゝ根むの仁義を書くのゝう
ゝ文藝武藝ゝ書ゝ毎ゝそれゝゝ書ゝ能の
君ゝまくゝせゝくゝのゝゝゝにのゝ花も實もあゝ人
ゝの書ゝ本ゝくゝのゝゝハ文藝武藝ゝの書ゝ
なゝゝ本先後ゝゝ物ゝ前ゝゝゝ

別行 ①仲元曰ゝん
まゝゝゝそれゝゝゝなゝぶゝりのゝいゝくゝはゝまゝ
書ゝゝんや

別行 仲の曰本ゝ伏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝくゝ文藝をゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なんよあはしとおほせられ候ハ
ものと成ハ
師の曰それもそれのさたなる
せなんよあり
まことあるなり
きものよ腫病なるもあるべし
もあるべしみけ乃たけ
ゐべしゐぐしさもあ
また我のこゝ
まして候

別行
本意問乃勇1仁義の勇血気乃勇

候
候
候
ハ
の
の
の

りとのはたらきそれ皆もとあるものなりふかく仁義の勇どもよりもしのぎ天下ふ敵なき死地大なる勇をもてしまさ大勇をもつけ給へり

徹底の義人の義をもふかくらば大勇ふり血縁の勇八原理無理義不義乃わきまへなく兵かくむこさよ強くくくく

大勇小勇よりもひやうの庭や

別行 沛の日大勇ハ

ものひぐ所のきとゝわなくまさりひくあるさ

ゆゑ 別行 彩色 衛 衛乃まゝより大勇なるそ者ハ

乃とをこたりとあるゝ軍陣ハ大勇ハ

ものしやめてもものくれ小勇ハ人を武勇

ぐりの俊 俊 ものまでものくまひしやふくべ

も大勇ハ物ものを働漢ものか小

勇ハ大勇勝利とうなふすあげてかぐべ

ものしひ及事なり

別行 体 完回日軍法ハ物くなるひあるて其流れ

物ものうあるゝ海乃俊大勇ハ人ハものてゝ

別行 沛乃日軍法を大勇のものゝ

わるものくゝ庭や

でものもあ事ものくゝ大勇のものゝ

へぐ矢ものぐれ矢ものぐ

ものと人ハものものたゝ人ハでゝ仁ハ心なり魂募

周囲ものまをこなり寄正ものを見なり旌旗金鼓

兵具のものゝ人ものゝ日ものを

膚毛髮なりものゝ人ハ皮膚

毛髮ものゝと軍法ものとおもものゝものゆゝ

流あるものゝ旌旗金鼓兵具ハものゝ

やうの俊法日ものなどものゝ

ものゝ流あるものゝ

ものしるしとも成べうもなし所
もり人よりて考へさぐめるがうくいしりて法
えをうつ流とうつしてその大和の俗方うくあ
そうしくさぐあうをもとめて勝負式
ひとなるべうゆへよその流あるをと知べし鎖
鬱周南帝正を勝負せれど眼目を是なれど只あ
く一術にして流ゝ別くかうとくいとをるは
は眼目あるうふを是なれを百戦百勝乃功
をたのうゆへよ名大和と云なり此眼目をうく是
をうをうれど敵軍なをそれをうをうれ
りあしさ大和と云なり此眼目を是をど

髪をさを世後をを後虜毛髪ごりを軍法をを
とうを物へをうんを髪下りなをを軍法陳
圓八年東昌をるををり英帝を山代ををくそ
ををり太公法書など代代法兵伝変しをれり
日本をくをるをきにを後しを為ハあやをりあ
たを出をとををををびをををを軍法陳昌をあり
ものをふ心ををををんをくハをるのををを為乃陳昌
をくをををひををたをとあのをををり愚
掘のをふあハををと掘宮素驥をたををりひり
ををう毎名大和あるをををのををくを乃出ををを
あひをををを慈変代光怪を紀ををりて

あや犯してのち大将軍として天下のわるひ
ごとしなれりこれ[illegible]の[illegible]なく徳よ
皮膚毛髮たりとも[illegible]
なり軍法と海内[illegible]人を[illegible]傷[illegible]
門に入て文武合一の[illegible]をあきらめて[illegible]
[illegible]書を海内[illegible]
[illegible]事多あなりこれ[illegible]海
[illegible]武家第一の急務[illegible]
乃心学をきはめ[illegible]軍法[illegible]軍功
[illegible]その名たかき大将傷[illegible]
[illegible]人も心学のみ[illegible]

御座候

[illegible]傷門の心学[illegible]
のちは軍法を海内[illegible]
[illegible]書よりも作

別行

師乃曰[illegible]
[illegible]の才を[illegible]
[illegible]人を心学[illegible]
[illegible]軍法[illegible]軍功[illegible]
その海内[illegible]
[illegible]人を[illegible]
[illegible]民を乃毒[illegible]
[illegible]ハ天[illegible]
[illegible]故滅[illegible]
[illegible]その沈没[illegible]
[illegible]

き大將ゝ多雜なくゝ漢繁昌しゝ人まれ
なり傷漢代史書ゝ考へ乃べし走軍法乃や
ひゝ國家安拓武運久しくして美民とめ
まんゝあなりゝつゝてぐんゝをその毒ゝあり
ゝ多乃うんを埋き國家を滅ゝ奏しなれど
軍法り乱ゝぐんゝうゝ走ゝ奉ゝ老ハ女養の
ゝこばゝゝなりゝ上陰謀ゝ乃ゝ詐ゝ力
ゝ任して仁義代法なれ紀たゝひ韓信項羽の才
あるゝとゝも義部の敵ゝ有ばくゝしあゝこ
どもして仁義乃師ゝ敵せんゝ三軍に
嬉ゝ法ゝゝ太白漢ゝ齊乃使撃ゝ親

乃武辛りあゝ多ゝ親乃武辛ハ秦ゝ鎮ゝ
ゝあゝ秦乃祝子ゝ陳ゝ植文の義部ゝあゝ
多ど植文の節義ハ湯武の仁義ゝ敵ゝ
ゝゝ乃ゝ孫ゝ玩味あゝべゝ
きみゝと第ゝ異子乃ゝ法ハ和ゝ
ゝ通ゝゝゝも和ゝゝゝ
なり傷門乃心学ハ法ハ
るけまゝ心学ゝ法ゝめその徳ゝ
あゝ軍法ゝまゝびゝゝ
ゝゝ軍法ゝ学ゝんゝゝ
仁者ゝ軍法ゝまゝびゝ

[別行]
仏元同日土のぎんみをいかやうにはつまつりのそ
御[候]
度[候]やせるの乃法師とかくへ給とみるお
ぼ味ある物よ[は]き[候]人どもぎんこのさぼうさまり
さ[候]事あるとをもみこうさ[候]ぬ[候]ぬ[候]
あこ兵しに紀ひいき御[て]の[候]あれものぐこ[候]きつい
とりそなされてたうちぎやうとをもりうをぎんど
[れ]
[別行]
俗をめ少師の日そ[れ]ぐちと云ものそ
乃法[て]法[て]きなくの者ちほどの人をこく
ぎんこしてこ紀士をかへくきあひ[候]ひ[候]ぐこも
せくんれ風俗あくぎんこれさやうあうこ[かなら]ぐこ
ゆへうしのぐこぐぎんこうをりてゆこ[え]みこうり

[ぬ]ぬ[て]ぬ[て]ぬ[て

事とりやこなる人文藝武藝の才智藝能のり功
を成ハ天下の為のこと成の功とつみ或ハ国家の
功と成し或ハ天下国家の為にとくに或ハ天下国家の
為のためふかき事と時てはたらひを大敵と
はたらが武功をたはつなり皆功なり法と才と功と
三つとぎんこれ揃とさぐあ上中下のしるふとく
その分際おの趣の智とあらへ友識とさげらが古
来さぐいのぎんこれ揃て候今を才と功と
のとりさハ候へども法のさきあく志の人まれなるもせ
みくさり

別行 ①仰元日いはの功とすものぎんみは
りも揃りとくあひしや 申候

別行 沖の白功とすと

ゆへ人のてろよりなりくるゆへむしーれおきてふ
うるふ事ハとくあく候

別行 ①仰元日むしーのあさてきを
いりばかりーー候や

別行 沖の白むしーのあさてきを
功を法と揃ケ法ハ中和とりつ大ケ法才を
功も義理よりれ功ものを武実の才功よあしもさく
者ろ人れ心ろおこその法ーれ法なり候てきの
のぎんみもあやまるもりなれど人君れ為ろ為とあき
為ろかしておこれ功ぎみとさぐめすと功し法の
区武賢上中下れきれぎあ法乃ぐ紙てもを
く毛頭あやまるをけきを法士のてろとの為ろ

なくあり表裏の法と才と功ともろともにもつ
ぬ表代ちうせりと法くもりのなりこと見ーせあそ
の脈ありなふ用ほどしたあそあらそも意都
思こうあるくもくれぬこもあそ男ようたるあ相そ
へぬ者ある人ならあそるくさるも也

体充同日本下ぬ也いうるうよはふてうがよく世産
ゑ　師の日話教代京下とさーけるよ世系八公明
塩慶の心をりくしてうをあるもと人と老おくびも
ぬ賢智題不宵その命おく恩の男接ようりくも
しるく殺法求智ある賢人ぬもうる法ようあ法ぬ
勇ゆ代譲食ならうあ代題不宵よもな

別行　別行　続　老　て候　徳　て候

義ぬゆうるもあるものなりそのえるるぬもくるう
ぬよんくく相意のくくあそさつひあまば
人るり男ようあるものるたれるのるはひ色
うあーうふまりくまれりのも男るくおとくる
ぬーたユの春代るる様末のはひ屋るるく合
点あるべーまるす智技解乃人ともるぬるるる
るのるぬあるものなりそるるも屋ぬえるこるる
るはるりあるるくいの気よへるるお野人なれぬ
ゆるるもとえぬるるこれぬんるくるるる人もなげる
るーつるひあびるるなりるれぬその人のえるるるに
もるーつるえぬるる色見れ気ぬるもるるる者ゆるる人ちる

て候

くさ一つふるさほどのさびつるらとしづまをもあまよ
さ一つひさしく人ぐくとも思ひそもとも一つ思べ
きぐ人づてよひつぎそ一つひとり飽うてさよに
もなり一きもちろぐさ花うなり一ちろゆへよわ
ものとりあり一よのこ字あやうれたりてるとやれ
あやまりこれを君の心くとさまもひとるおこまり
ま君の御下をさ一ぬうへ八たしくへだ磯名のとるを
もしぐごと一ぬ八ちうけうきめ八ちうあくれよまぐ
ろあくとりなれを磯名のとうぐひるの一ぐ八ぐろ
ごくし四ちんの心とあるのぐき人なくぐ八ぐ
いくあ八ものなり心のちくれ一四ちんを物思ど

しれさぐ八ぐ我あつあをきそそれをそれをぐりちひぐ八
君乃心よ我ぬ一くちくきくせをものをりとさ一ぬ
ひあまふをのなりちちゆへよれきぐくそれあ
中よありてをなれよあれ一れ君れ四ぬきちれ
むをの四よくくれひきれきぐ土なくぐをきく
ぬ一ぬあまをあゆくよくせをものもくうり毎ちり毎
とをちちくひとなくくなちをのなれぐ八ぐき
をものを家中よありてもなれよひく一ぬトの
くれをなり一をも国乃みぐちをあきもも事者
ま君乃ぐちぬひくよなるを海くくりをぬきく物
ぬぐきすりれ候

[illegible]元同日法度をさだめられ[illegible]
[illegible]くの御序[illegible]や 別行 師乃日本[illegible]
[illegible]ものなれば[illegible]
[illegible]
[illegible]

四とせとまうすもとくあく味わい鶴の亀善うかたひ
あかり為うたうとかとしに時のやうよくくと海よひ
多くの人の心をあきむくと濁あくとともにたとへうり
まふかやいろの濁と濁ろ海とものなりろくろびよ志
はあそとけたそのごみとのつくまづこえうんまもと
むづとし法治法治の分別あるべし心あくべし法
治きえ動心をとくして人ば心をこづくしてまるもの
也たとへば太立れもとうはそのの体ろくあてものゆ
うとをとをとづくし法治を我んをこづくして
人のうをこづくしんとともろものなりたとへば流よろう
きくくし掟規なるべし書の心あくうなれじざんを

たづくし法度のあるひ人ふ来るのくかりくだ書ふん
かくくれば美しすぬざんはなくふまりくその法度
さいくあくくあかいろものなり

別行 ① 仲元曰志とものの
びくんきいろうくくがくくおりくし海くやくき
きざまりくるよ紀法度を候や
きれ学問ハとれもち儒学なり志儒よきこびて
まものびきるくくはよ紀法度ハ法法くく事ざき
しくてくさざあれこのまり候一偏りくさ海りくくと
を紀法といひくく勇ましたくぬこのなるを法度ふこと
心迹れ義別あ事国礼などあふ記くる事を聖人
天時地利人情乃至善とくくそさめくまふ法度の

あとをのりをかれたるかたちにて本意を
心とせずのあとふるまひをもてはやすこと
里商代の法度とさだまるかゝんとしるべあと
うなげまた聖人の心のようくうをふと名乃活
法とたゝこゝろをもてはたらして事のあを
うる成をもとゝして勝機の活法と云
てあるゝして用ようそれを活法とハ云
敵の油をあさうふして拍子をさだめ風礼を
とふるゝをさとりまうでんとてその
中をこゝをさとりまうでとれぐとし時と所と位と
三赤相機の色若とうく分別して方古不易の

中庸とおこなふを眼として義理をして論じてハ合点
ゆ紀がさるれで用のまへなるこゝろをたゝへ作法
こゝろぐこゝにたるゆへ礼紀ようきの仕様と耕作
乃事をとりて儀論義明あまぢ耕作ようたゝへ
ゐこゝろぐこゝに時とそ天れ時春夏秋冬運命の否
泰をいふなりたゝへ毎年田成ら稼と毎年耕作
乃さはうをとくはつとそをもてこゝろのなるこ
ゝを耕作乃ようをあこゝろあてゝ用ようをく
ねてそなくあ候ゝ時乃ちぐひをとゝて常して
功なくこ候ゝ神ゝて学問もまつりごとも運命乃
教乃時代宜とゝろ第一なるものをあこゝひ

耕作の時ゝなりてもゝ畠より稲とうゝ田より麦と蕎
麦なんどほど植よいまゝ蕎麦とも油菜とてもそ
ゝれもの成候これハ時ゝ耕作の考うもよ
くれどもとゝろめちがひ成候まゝ用ゆたてゝ候こ
まゝこれがくるしもあるべきもの出の地利と考ゝ所
あるべきとゝ存ぜ候べし耕作の時とり田に稲
とうゝ畠より麦をうゝ天時地利これ有候
てもゝ他人の田畠よりうゝ成ぬまゝ我用ゆたゝね
うゝよりてゝ他人のゝ成あるべしこれ考ゝ
あるもゝ成まゝ除よりなる心成
まゝ成りゝ成候ゝ人位のゝ

と初ゝ大ゝ成候ゝ他国ゝ成候ゝ耕作時ゝ
田より稲とうゝ我畠よりまゝあとうゝとゝろも時ゝ
とゝうゝ成候ゝ麦とうゝ麻ゝ成候ゝ
はゝ成候ゝ天時地利人位ゝ成候ゝ
ゝ成候ゝ苗ゝ稲ゝ成候ゝ成候ゝ
ゝ成候ゝ苗ゝ成候ゝ成候ゝ
ゝ成候ゝ苗ゝ成候ゝ成候ゝ
ゝ成候ゝ苗

ゆへなりこれにて学問を改め人々の心をとこげ
まじと常々とゝのへとゝわきまへあるべし時々しとゝ
も信心をくかゝひ苗代を植もしく人事はかゝめ
とゝまげまして也あるひは大旱に成あるひは
長雨よりあるひは大風よりあるひは蝗のあひ
秋のとりこなしを行ひ天災といひて運命
乃なりとこゝろをのくるふ所
之なり分ぶしの人事乃法をあとこげまして
のちゝまてをたゝさるおこりあるべて人
ゝと云人々成よく法をあてわきまへかゝ
まして人事乃とゝおこゝろふあゝされば天災と云や

人々とゝのへとゝあゝたしてわざまひにあゝ天災にあゝ
作物乃蝗や云まれとゝる禍なり耕作をは
ゝまして人々乃つとめあるへきこゝろ
て天災はまとゝ
あるひは畝とおこし園をひらいたりひをあとうひ
おとかゝわざを運命乃理外とゝく神祇をべしるう
り為をれたしをおのくひつゝきやうゝ候へども
まゝとゝ乃法とあゝきゝふまを知ゝ一つゝまれう
明法ゝとゝ候へ時処位のあんなる人々乃
法をあ運命はさゝきれてみ乃げとゝ乃ひとし
別行
○神元日学問とまりとゝやゝ乃おなりのゝね

人もひとりのまて此先や　候　別行　神の日嗣にて在
りんしがくりんまもられるものはひとつをなくゆ
ゑ乃がくりんあさうなるざらゆへよい為くまひ
そるうさびあることとり　て候　がくりんハ四法とあきらか
りまもるを全神祇平とした明法を天地まを和の　ほ　へ
御ぢ上をなくゆかをあく神の味海なるものをれを
天下国家をおさむる政ゑ四法神道明用代為りて
て　候　ゆへ　まり　四法りとをあきらかにする学問
がくりんを天下おあをあきらかにする政なり中臣一よし
て二ツとして一なるゆへとんめべーものうへ法度乃
箇条ばかりをまりとして　候　天子法度のあ

りおさなひ　候　一ゑ　ゑ　ゑ　

おの字に拵音大遠字のごとくなり

別行
仲光問曰ようこそいふりの海時のもやりあるてあるねものもたるや

別行
師乃曰ようきまりさ
ぶれ学ぶる代よりあるぐらくしかそのまはたこあまぐ
人どもよは変をおそれいはむしむれ心ありて治たれを
まけとなりあべしもられしことあのいとを学ん
のれくむざとせりくなりもなる義よりおるべしこころ
をれしれをいはむしむ陽をそをへなりとゆんてむ
ままはめの云まと義引をくらび期しあ若
るんをを大為道のかるはるに事を書きあうちち

おんらとくく大陽のうなほとなしとし利極ぐてそせと
くちさはをおをしなたを基と変べ
別行
仲光問曰がくりんはさとろなるもさくく移たが
くりんと云ふたらざるようりとびはが
さやらとはいちうなるりてはたや
別行
師乃曰さとりれさはる語乃断のとはなまば
なるくくとにのべくくはその皮膚乃ようは
うむとりあをへてあるのべくそのくまるくら
のくくらはしのさを表れ心りは仁義乃神ぜとるを
わさまへぐるを育用れ久くくちをんまけざるかごし
ちるゆへはのしのしのを心育をなづけ

足育用ハ青黄赤白黒五色ハ人の五常
なぞ事りきこえ
こちらと足りけざ独むらぐひ
ぢくうの海ひうう心育を仁義礼智伝乃天常天
乃神道宣命生死などの事ハ
とゆきも心ものの乃理を去りあきらむるとなる
ざれゆくまいつ道乃神理ものうぐひ海ものの
かの育用帝代の国今をしまひ療治しく衣服
ぬのれぢくうぬひきぬれも今までうぐひあ
つる色かうちておあきらて巻角乃うぐひ
とうりきとうなりそれぢくう心育乃ぢんぬも

帝代ぬ乃御神ものあひかぐりん乃加へはて年心乃まる
こ紀ものきわれもとも今まぢうぐひ海ものうえ常
天乃神道宣命生死乃とりぐぐくうえ
く白昼ものうぐひ乃とうつぐくなる我さうものの
帝ものり授乃とる云理乃ぢんぬ乃ものひかる
我とうなれもまぢあれ海ものと神ものうう
とうりあとくくく体結まべ大覚明悟
乃人ハ現在乃とハやおとゆぢ生系後れとハ
足天地の用ぬれ乃理まで足白乃心乃とうつぐくは
きうう小幼だまものゆくよ孝悌乃伝れ神乃とおこうひ
あまものと銭て命唱てのむとくみて人のやむ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まくはの神や　一説行　神乃曰よ紀ゆんしゆ　て候　それ
ゑと自分学とゞくこゝろもめざれど合点ゆ紀あるこゝろ
まて候へども大ゝこと　候　ゆん夫婦人君子風風禍
難をば後者とさゞめ善悪の二字をそゝそれと指のよし
天乃ゆ行あてがゆゝ　鵜　鳥獣程なり成
見聞ずとゝく考へ人ゝて投鬱ゝとさん　ゝこゝろ
くゆ天乃と指むゝして生れぞこゝ善悪なれど天
乃ゝ人物乃大父母ゆ　て　指ゆなり人物をんたゝ
ゆ子孫ゝて投鬱ゝ　ゆなり和ゆの天乃紀禍ゑ善
きゝその之ゞ業乃人物もゝれ善ゆて悪なゝと

治心ゝ紀ばゝゝ茄ゝなゝゝゝとゝゝゝ

梅檀

さ天乃根なり地とさぞ山と田畠と地乃精を
受壊と不毛の野原ハ地乃根なり聖賢君子ハ人
乃精なり愚癡不肖の人の根なり鶴鳴雲風ハ鳥
乃精なり蛇蝎ハ獸の精なり芝蘭ハ草木の精
なり竜ハ魚乃精なり鳳凰ハ鳥乃精なり麒麟ハ獸乃精
なり木乃精なり鱗ハ木乃根なり麝香ハ鹿乃根
なり

ちゑんぬつゝれ精あるとなく根をたとゝ
うて候人のかゝらそみるう脈をかゝれ精なれ
そゝぬゝつあり毛髮ハかゝれ根なれそのゝ
ゝれそれ精根の多寡とあきらかに

ゝしそゝばれのゝもそれ根のうちして精なり
ゝハその根のるゝゝなるうち根ハその精ゝ
ゝさゝりのなりゝうれよりれにんゝの精を
ゝけうう聖賢君子ハ愚癡不肖の人君ゝして
愚不肖をおさめて教ゝ給ゝ根ゝ精ゝる愚不肖ハ
聖賢君子ゝ根ゝ下ゝうして聖賢の下知のゝゝ
天命のゝ根なりゝ身君ゝゝくゝ根ハ下ハ
ゝゝりのゝれゝゝ君ゝるゝゝくゝ根ゝ下ゝ
なり愚不肖ゝおかゝゝしゝうゝゝゝゝ分明
なり精ゝうけゝうゝゝゝゝんゝゝ君子ゝ生ゝゝ賢ゝゝ
ゝゝゝゝゝのゝゝ根ゝゝゝゝゝ根を

うまくて勇ましく剛を楽しまうと貧困なるものよりて
國のきくさたあれば振むけ長をうなづけと
き辛苦なれば振むけ長をうして振むけ長をうし
ゆひ函をもとりのかりあるうえ人だらせるさ馬をを下
あがのうえむろくくらせれいでくるごとしむ
覓臺の四代より名重人をを夫のそうのものがり
さまうつぎれ大変人八事相りるりその深れ奥
人を統侯と為をれ沉れ者よき卿大夫さしうち
勇嬉不肖ありうものを農工商の庶人となるを上
下中下を下庶人よりうまれまで分位お無の
ちうのよ庶くそれば孝悌仁義つまれ伝又

偏れみちふ紀さををよ紀ちをつうも紀邪源の道
会ゆくをうの不義をしおこれ人をくて天下を
一人もあくにんなし堯舜の民八比屋邪封と之
和きをしとなり振むを勇不肖の人をにくんを
所ゆくれど聖賢を勇不肖をふ長人なり者
長人のうちよ長短大小あ紀の長所ある也せ
若のうちの長をして中ゆくを勇不肖を長のうちの
長をしていやしきものなりたし人で全を紀し用も
ゆうが物をを中来を紀ゆれどもをうふ長短を
紀の長所あるをく全紀をのうち紀長をて
ゆくく用決を全のうち紀長をしてやしさがごと

しかやうのこと人々とく体得してあんぐんハこれ君
子の学問なり 通 通ずれば東の西目とよく教念さ
別行
仲元曰通病不肖もあ
ひまを信じ通ずりがくおわりまし体得
左候はゞ
ものを通人とハ候ハんや
別行
師の曰聖賢のがく
問ハ智恵のなかさらなるべし通病ありてせいりんの
ぶんくらゐ体得せざる通病不肖しに通病不肖しい
へども良知良能あり その良知良能とハ
まこと通病不肖も善人の性あり通病不肖と
のまことなくしんと云べき通ずるとハ
さきに知あるとき知あるとき邪魔よ邪魔
良知良能とハ
じたるひ才智技能をだれうるとも邪魔なし
て良知良能とハ
通人とハ
孔子曰如有周公之才之美使驕且吝其餘不足觀也已
通
通
通

きそのうちにくはなくい易経の神道とさとり我方
乃変用とるもの候この易学は孔子さへ韋
編三絶とやはらへ候へ共くれぐれ察の功とつ海
ざれむその皮膚の骨得ぬくは儒者のる
はもとよりあまねく天地のあひだ何ものも易の
神理なれる事なり又易理ちりぬる事は
一切わすれるくい

別行

○神道別行

光同日天道を福善禍淫して善をとるはよ
福とあらへたくとをしたるのよ福とはたきふ
ふりとをしび候一善人も仕合あしくあるひはさ
ちあひ事あり是悪人も或は仕合よくあるさ

八ちびとうりのあるく法なをうる理をおしは
ぬ候や別行神の日ときこひしれて候是も易理
とうとくきこれどわきまへがたき理しして候天道
陰陽して生化義育しまるの織結れ分数
を今ちまづく天地のあひだにみちくて数々色貌
象あるもの天地一定乃分数あるはもとゆくり
人間一生遊の有ひざあ食乃境界吉凶禍福一
飲一食よりうまでとくく命ようのうげうまる
これこと天道の御りなりとひとしはは命ようなま
正変あり正変よ虚変れ揚屋あり人にんぐんの
乃貴賤貴賤の人乃数きこれ資生れうめ

福

数

脇
脇

脇
脇

脇
脇

ツあり天道こゝろみ獄をとゝのへて善人ゝ[illegible]
ゝ一日壽ながれ惡人のながらへ二十日
富貴き紙宝の澤山なるを云ふ日康寧これ
きうをてひとなく疾もなくなりてこゝろ四
曰修好德貴きゆゑ德あるこゝろにして天理の
ゆゑ終生をまつとを云ふ孔子のたまへ
こゝろ[illegible]曰考終命これ天理をたゞしくこゝ
いのちをたゞしくこれ[illegible]して正理をまもりて死
をまつと云ふ已上の五つを福と云なりさて又禍
淫のわざをもひて六極とのひあり天道こゝ
六極とりて惡人をこらしめ給ふ一日凶短折凶
あくぜつなりて死ぬ[illegible]云短折ハ夭
のこゝろ多くまよいのちをれ
[illegible]二日疾三曰憂四曰貧五曰惡六
曰弱[illegible]剛強にして欲すくなく仁孝
乃傷[illegible]或ハ逆とこのみおこす事
と云六曰弱これハ自棄まれつよき業弱
て仁孝ハ傷道とゝもとハ過ぐるこゝろ
こゝ敬を[illegible]病にて欲すくなく事
を畜生ゝ[illegible]不義[illegible]
ハ六つを六極と云ふ[illegible]ハ書經の
法範[illegible]天道心の福六極とりて善惡と

そもそも法のもとは天竺あるいは震旦のつく秋をもて
はるかに発ぜしかども今も未代世
いつもくちらぬ名ばかりあるいは人しる猶
うまれ来る人を六根とも乃ち天の時を
地の利よりもとどまりくるしき実よりかくさ人のな
まじ又猶六根の作をもて来よりあり船
部乃ちもとうまれ運命を形はあしく
実なるゆへは慮なり猶根ゆへにしてしかの
おもしあるべし六月乃去周ぬ熱くくひ
らさんかよからぬもどもあるべやまひあるべきを
うもとくもひもそもそも作くもしさ根月の大数

大数熱乃病人をもぐねぐそもなれあたしつよ
乃人よあちあつさちひさもの病人は所ある暑さ
きもしおもはるれども暑気を宋よあしく
て色なり悪敵数熱のやまひを根よりさて実
なりゆへは色なり暑なれ実もの病邪ある
かくざるどもしば多くへてくく作邪語あ
ひしもろこは益跡とそ一米四の塩滅
あるもたまりはくぐやくあ屋がこうじてん乃鶏と
くひあまどもせ病自笑ありながいてしてりこう
あるもそれで妹宝ふくんうきて鶏をく美しよう

まうさこころのもとの弟子よ親子とゆ人あるを三
千人の門弟のうちに接続りを類する大賢
人なれども單飯陋巷不幸短命なり此二の
ものうさびしく海ひとくにとくにとくるふかくのごとく
おほく候運命の弊しまいまの
ものたちびあるとくにとくに第五不易乃天道なり
びとなり　福善禍淫のさとを信仰ぶかくつ
と云る事は六月の士用まるさと病人とをて
夏夜あつきといふあるいはもちなるとひ極暑の大変を
しらざぬきてもあつき病人をとくをやしむこと
云ふ海ひとくにとくにしあさまーさ海よ

ひとくにこころのもの墨の乃和理はあるとて和やまとをゆくと
海ふりの方ときとうもちぐあるとりなれを福
善禍淫のことを八幡ゆくしてをりぐさーとつ
とを海ふるり和やまとを紀こころとくにとくに解説
歌会しもとを紀祢理をさとくにとくにが墨の病人悪
意多数遊び病苦ありろへ中略ーぬまばぬまばのの
人乃ごとくにあつきむさとおばゆりのあり数乃
ごとく宜命乃ごまとひややろへてを分数さ海
里ねれむうるぞ海人を去接の墨がとくに言人
を多福とをとをれりのをりを去ゆくよ道路を
病鬼奥王新をとくにつきーてくーしーとを

まことに善人は必福あり悪人は必禍あり
是は神理なり
しかるに善人の福は
尊顕酒巻不幸短命
なる者多し
福の分
ふしぎ
万世
紀
むかし
善禍
しかるに
福の
響
命あり
畢竟
無上
富貴
富貴
六親
福
徳

そのうへ又福のうちに
寿
福
徳
富貴
富貴
富貴

てを幽絃折しを[illegible]後絃[illegible]くさ[illegible]
ぶり行ひぶりなれば祈願あるとも心を専に
なり心をくくいわまじ用り拙き耳をきく
をうれしうしびとをれども[illegible]病ともかくらん[illegible]
うべ歌心乃[illegible]ん[illegible]ぶ[illegible]れも憂なな
くても心やをうべ[illegible]まして徳潔乃拙きを拙心
をえ[illegible]又福乃者四よ假好徳をうき方拙の[illegible]
あく[illegible]弱をうき者[illegible]よ拙きをうくく拙[illegible]長

翁問答卷二終

第問卷二終